旅の持ち物

豊橋市二川宿本陣資料館
ワークシート No.2

江戸時代の旅の案内書「旅行用心集」

今では書店に多くの旅行ガイドブックが並び、インターネットの普及により世界規模での旅情報の入手が可能になりましたが、江戸時代にも旅の手引書と言えるものが存在しました。

文化７年(1810)に出版された「旅行用心集」(八隅蘆庵著)は、道中用心６１か条に始まり、寒国旅行の心得、山中・船中での用心、船・駕籠に酔った時、毒虫を避ける方法、落馬・湯あたりしたときの手当などのほか、道中所持すべき品物などについて絵を交えながら細かく説明しています。

徒歩から自動車・鉄道・飛行機へと旅の交通手段は江戸時代と今では大きく変わりましたが、「旅行用心集」の中には、現在私たちが旅行をするときや普段の生活にも当てはまることがいくつか書かれています。

- 旅の持ち物は懐中物の他はなるべく少なくするのがよい。たくさんあるとなくしたりしてかえってわずらわしい。

- 腹がすいたからといって旅行中の食べすぎは良くない。特に急いで食べるのは良くない。空腹時の食べすぎは急病になることもある。

- 大水の出た川は、例え小さな川でも不用意に渡ってはいけない。出水時は水の勢いも強く、いろいろな物が流れてきて怪我をすることがある。山に近い川は、普段水が少なく小さな川に見えても、山奥で夕立があれば急に増水して川幅も広くなる。

●旅行用心集

江戸時代の旅行用品～知恵と工夫～

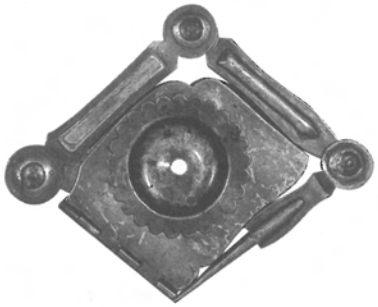
江戸時代も後期になると、庶民も比較的簡単に旅に出かけることができるようになりました。

現在でも私たちが旅行に行く場合、荷物は少しでも軽く、小さくしようと心がけるのですが、江戸時代のように自動車や電車もない、主たる交通手段が徒歩であった頃ではなおさらでした。

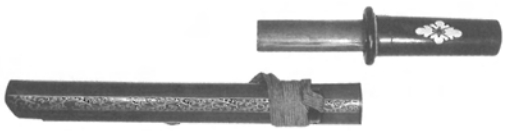
また、今では旅行中足りないものがあったとしても、コンビニエンスストアなどに行けばたいていのものは揃えることができますが、江戸時代の旅では草鞋(わらじ)など一部のものを除いて必需品はあらかじめ用意しておく必要がありました。そのため、旅の持ち物は携帯に便利なように軽量化・小型化が要求され、当時の人々の知恵や工夫が随所に見られます。

携帯用蝋燭(ろうそく)立て、折りたたみ枕、小田原提灯(ちょうちん)などは、いずれも使用しない時にはたたんで携帯できるようになっています。脇指型書状入れ、銭刀などのように、一見しただけではそれが書状入れや銭入れとはわからないようなものもありました。

不要時 ・・・・・・・・・・・・・・・・ ▶ 使用時



●携帯用蝋燭立て



●脇指型書状入れ

比べてみよう

江戸時代の旅行用品 VS 現在 海外旅行用品

下の表は「旅行用心集」や「道中記」の中から旅をするときの持ち物が
書かれているもの５つを選んでまとめたものです。
傾向としては、灯火に関するものがどの資料にも書かれています。
これらは現在では旅行時よりも非常時に準備するものともいえるでしょう。
これらを現在の物に置き換え海外旅行に必要か考えてみました。
個人差がありますが皆さんも一度チェックしてみてはいかがでしょう。

		西国巡礼細見記	大日本道中行程細見記	旅行用心集	新増補道中指南車	早見道中記	○の数	現在の物に例えると	海外旅行に必要か？	左記に代わる（加える）必需品
		寛政３	寛政７	文化７	文政12	天保14				
		1791	1795	1810	1829	1843				
1	矢立	○	○	○	○	○	5	筆記具	○	
2	針・糸	○	○	○	○	○	5	針・糸	○	
3	髪結い道具	○	○	○	○	○	5	ドライヤー、整髪材など	△	
4	ちょうちん	○	○	○	○	○	5	懐中電灯、ヘッドランプ	×	
5	ロウソク	○	○	○	○	○	5	ロウソク、ペンライト	×	
6	火打ち道具類	○	○	○	○	○	5	マッチ、ライター	△	
7	手拭類	○	○		○	○	4	タオル	△	
8	扇		○	○		○	3	扇子、団扇	×	
9	心覚手帳類		○	○		○	3	日記・手帳	△	カメラ、フィルム
10	さすが＝剃刀	○	○			○	3	髭剃り、カミソリ	△	
11	薬		○		○	○	3	薬	○	
12	カッパ（雨具）		○		○	○	3	折りたたみ傘など雨具	○	
13	麻綱		○	○		○	3	ロープ、紐	×	
14	飯入れ	○			○	○	3	弁当箱	×	
15	しり敷ござ類	○			○	○	3	敷物	×	
16	衣類	○	○		○		3	衣類	○	
17	きんちゃく・革袋		○	○		○	3	持込用バッグ	○	
18	きゃはん	○	○				2	山岳用ハイソックス	×	
19	鼻紙		○			○	2	ティッシュペーパー	○	
20	道中記		○			○	2	ガイドブック	○	
21	大小財布		○			○	2	財布	○	
22	耳かき		○			○	2	耳かき	△	
23	きり		○			○	2	きり	×	缶きり
24	小算盤		○			○	2	電卓	○	通貨換算機能付
25	大小風呂敷		○			○	2	風呂敷、折りたたみ袋	×	
26	すげ笠		○			○	2	帽子	○	サングラス
27	守ふくろ	○			○		2	お守り	△	
28	水のみ	○			○		2	コップ	×	
29	懐中鏡			○		○	2	コンパクト	○	
30	印板			○		○	2	印影	×	
31	往来切手（手形）				○	○	2	パスポート	○	

資料は左から刊行年の古い順に並んでいます。
例えば手拭は「三尺手拭」、「湯手拭」など更に細かく記してありましたが一括して手拭としました。
二つ以上の資料に書かれていたのは31種類です。中には往来切手のように当然なければいけないものでも書かれていないものもありますし、実際持っていくのは本人次第ですからあくまでも参考程度のものでしかありません。